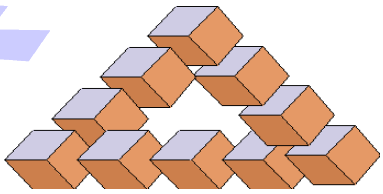
会長の独り言



No.6　H30.8.17

横浜市小学校算数教育研究会長　小林　広昭

研究主題　「数学的に考える資質・能力を育成する算数科学習」
～数学的な見方・考え方が成長する学び～

まとめとゴールについて考える！

昨年度から「まとめから授業を創る。」「授業をゴールから描く。」など「まとめ」「ゴール」という言葉がよく使われてきました。どちらも似たような言葉ですが、いつの間にか、「ゴール」という言葉がよく使われるようになりました。

今回は、そのわけについて私なりの考えを述べたいと思います。

（1）今までの授業づくりの問題点

算数の授業づくりは、本時目標や本時のねらい、または、本時の主張などの言葉を元になされてきました。これは、とても大事なことと考えますが、中には、目標やねらいが、私たち教師側の言葉で表現され、そのことにとらわれて、教師主体の押しつけのような授業になってしまった面があります。これは、本時目標がどのような子どもの学びの姿を表しているのか、具体化しないままに授業づくりをしていたことが原因と考えます。学ぶのは、子どもです。教師は、本時目標達成に向けて、子どもの主体的な学習活動が展開できるよう考えなくてはなりません。効果的に教えること、知識・技能を量的に定着させることに邁進してしまい、教師主導の授業になっていなかったでしょうか。

（2）「まとめ」から授業を創る⇒「まとめ」という言葉の意味にとらわれる。

資質・能力を育成するには、今までのように、知識・技能の量的な定着や効率的な教え込みでは、できません。以前の「会長の独り言」でも述べましたが、資質・能力を育成する授業とは、主体的・対話的で深い学びを実現しなければなりません。そのために、教師側の言葉だけでなく、子どもの学びを子どもの言葉や姿で表現することが必要と考えました。つまり、授業後の子どもの具体的な言葉や姿で、子どもの学びを表現することで授業を指導者の教え込みの授業から子ども自身の主体的な学びのあるものに変えようとしたわけです。

そこで、昨年度の始めには、「まとめから授業を創る。」と言われたわけです。

ところが、「まとめ」という言葉が「いくつかのことを一つのことにまとめる」という意味に取られます。また、今までの「まとめ」というと、授業の終わりに知識・技能面のまとめをしてきたことが強く私たち教師の中に染みついています。当初は、資質・能力の「まとめ」に変えるということも叫ばれましたが、なかなか今までのまとめから抜け出せない面もありました。さらに、思考力・判断力・表現力等や学びに向かう力・人間性等について、一つの言葉でまとめることができるのか、妥当なのか、という話も出てきました。授業のプロセスの中では、筋道立てて考えたこと、統合的・発展的に考えたこと、簡潔・明瞭・的確や目的

に応じて表現したこと、よりよくしようとした態度、よさを見いだしたこと等々、いくつも出てくるはずです。さらに、それを一つの言葉にまとめることはできません。

（3）「まとめから授業を創る。」から「ゴールから授業を描く。」へ

めざす授業については、いくつかの実践事例で少しずつ見えてきましたが、どうも「まとめ」という言葉の捉えが、教師によって違い、授業づくりの話し合いがすれ違うこともありました。

そこで、問題解決のプロセスで、学ぶ資質・能力を具体的な子どもの言葉や姿で表現したものを「ゴール」としたわけです。

この「ゴール」は、今までのまとめとは違い、授業に一つとは限りません。問題解決のプロセスは、様々な思考力・判断力・表現力等や学びに向かう力・人間性等が表出します。これらは、授業の終末だけでなく、あらゆるプロセスで表出します。つまり、一つの問題解決にたくさんの「ゴール」が存在するのです。さらに、それらを教室のいる子どもたちは、それぞれの個性に応じて学び取っていくと考えます。ですから、全員が同じような「ゴール」を描くとは限りません。ある子は、たくさんのことを学び取るかもしれません。ある子は、一つのことでもそれを深く学び取るかもしれません。一人ひとりの学びに違いが生ずる可能性は高くなります。でも、「ゴール」にたどり着けない子はなくしたいわけです。ですから、一人ひとりの子どもの顔を浮かべながら、それぞれの子が、「ゴール」にたどり着けるストーリーを描くことが、これからの授業づくりに必要なことと考えます。

では、「まとめ」という言葉は、もう使わないのか、と思われがちですが、私は、これからの授業にも「まとめ」は必要と考えます。（すべての授業ということではありません。）生きて働く知識･技能について、教室で一つにまとめることで子どもたちが自分たちのものとして、学び取ることができることがあります。

ですから、「まとめ」「ゴール」という両方の言葉を区別して使っていったらどうかと考えます。

さて、今回のセミナーでは、「ゴール」から授業を描こうとしています。つまり、「ゴール」は、子どもたちが主体的に、資質・能力を学び取る姿です。そこに至るための子ども自らの「問い」について、ぜひ、みなさんで考えていこうと思います。

＜この「会長の独り言」は、印刷して配付していただいてもかまいません。＞